

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	フレデリーさんじょう		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さん一人ひとりの特性やその日の状態に応じて、過ごし方や課題の内容、関わり方を柔軟に調整しながら支援できること。	お子さん同士の相性や活動への集中のしやすさ、気持ちの安定しやすさに応じて、1階・2階・パーテーションの活用など環境を調整し、それぞれが安心して過ごせる空間づくりを行っている。	新1年生の利用開始や利用児童の年齢層の広がりも踏まえ、個別活動と集団活動のバランスを見直しながら、より一人ひとりに合った環境設定や支援の選択肢を充実させていく。
2	公園など地域資源を活用しながら、地域の子どもたちと自然に関わる機会を持てる環境があること。	天候や子どもたちの様子に応じて公園等への外出機会を設け、事業所内だけで完結しない経験ができるよう支援している。また、子どもたちの気持ちを確認しながら無理のない形で地域との関わりにつなげている。	地域の子どもたちとの関わりの中で起こりうるトラブルを未然に防げるよう、振り返りやSSTの視点を取り入れながら、安心して地域交流が継続できる支援を進めていく。
3	職員間で日々情報共有を行い、子どもの様子や支援の方向性をチームで確認しながら支援できていること。	毎朝のミーティング等で子どもの様子や前日の振り返り、当日の支援のポイントを共有し、どの職員が関わっても一定の視点で支援できるようにしている。	記録の活用や振り返りの質をさらに高め、支援の根拠や改善点を職員間でより具体的に共有しながら、支援の質の向上につなげていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	初年度ということもあり、自立支援協議会や地域の関係機関、障害福祉サービス事業所等とのつながりは、今後さらに強めていく必要がある。	新規事業所として運営年数が浅く、地域の関係機関との関係づくりや情報交換の機会がまだ十分とはいえないため。	相談支援専門員や学校、関係機関との連携を一つひとつ積み重ねながら、会議や情報共有の機会に積極的に参加し、地域の支援ネットワークの中での役割を深めていく。
2	家族同士の交流や、保護者向けの学び・情報共有の機会については、まだ十分に充実しているとはいえない。	日々の送迎や個別対応を中心に支援を行っている一方で、保護者会や交流機会を企画・実施するための時間や運営方法の整理が十分ではないため。	小規模な茶話会や意見交換の場、書面や通信での情報提供など、参加しやすい形から段階的に取り入れ、家族支援の充実につなげていく。
3	非常時対応や各種マニュアル、訓練の実施状況について、保護者への周知の面でまだ改善の余地がある。	事業所内では訓練や準備を進めていても、保護者に対して分かりやすく伝える機会や方法が十分でないため、「分からない」という受け止めにつながっている可能性がある。	訓練実施時の報告や、マニュアルの概要、安全確保に関する取り組みを、通信や掲示、面談時の説明等を通して継続的に発信し、安心につながるよう周知を進めていく。